

授業概要

学校化が極めて進展した現代社会において、ほぼ誰もが教育を受けた経験があるという自覚だけは持っている。しかし、自分は学校には行ったがそこで受けた教育は真の教育ではない、などという言説が一定の意味を持つことから分かるように、学校に行きさえすれば教育を受けたことになるわけでもない。では、そのような真の教育を受けることができなかったとと思っている人が、自分の受けた教育を反面教師として教育実践にあたれば真の教育が実現するかといえ、それもまた正しくはない。教育とはかくも厄介な代物なのである。

そこで、教育を職業として行う教員に関するさまざまな問題を講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第 2 回	ディスカッション（1）：ビデオ（教師を扱ったドキュメンタリー番組）の鑑賞（1）
第 3 回	教職の意義（1）：人はどこまで教育できるのか（遺伝と環境）
第 4 回	教職の意義（2）：何のために教育するのか（社会化と自己実現）
第 5 回	教員養成の歴史と教師観（1）：戦前の教員養成と聖職的教師観
第 6 回	教員養成の歴史と教師観（2）：戦後の教員養成（1）と労働者の教師観
第 7 回	教員養成の歴史と教師観（3）：戦後の教員養成（2）と専門職的教師観
第 8 回	ディスカッション（2）：ビデオ（教師を扱ったドキュメンタリー番組）の鑑賞（2）
第 9 回	教員の生活（1）：教員の服務
第 10 回	教員の生活（2）：教員の日常業務と「チームとしての学校」
第 11 回	教員のライフコース（1）：養成
第 12 回	教員のライフコース（2）：採用
第 13 回	教員のライフコース（3）：研修
第 14 回	教員のライフコース（4）：指導力不足教員と教員の処分
第 15 回	教職の未来：教員免許状のあり方をめぐる問題
第 16 回	定期試験

到達目標

本科目は、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を講じる科目として設定されている。「教える側」である教員について理解を深めるとともに、自らの教育経験を相対化することで、教員としてのあるべき姿を考えてほしい。

履修上の注意

履修者には毎回の授業の前に配布する資料を読み、考えを深めてもらうとともに、毎回小レポートが課される。負担も相当なものになると予想されるが、がんばって乗り切っていただきたい。

予習・復習

予習：前回授業時に配布する資料を事前に読み、理解を深める。

復習：講義内容を定着させるとともに、適宜示す参考文献にもあたってほしい。

評価方法

毎授業時の小レポート（50%）、定期試験（50%）

テキスト

テキストは指定しない。

適宜資料を配布する。